

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
第5学年	国語	26人	算数	26人	理科	26人

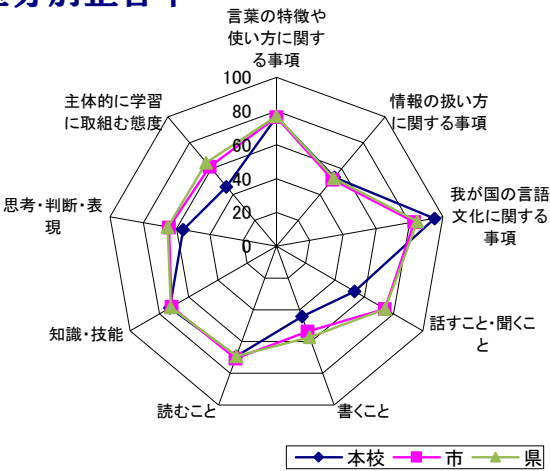
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.5	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	53.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	95.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	53.3	74.1	74.2
	書くこと	44.2	53.7	57.2
	読むこと	69.2	70.7	69.2
観点	知識・技能	72.9	71.6	72.3
	思考・判断・表現	56.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	46.0	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

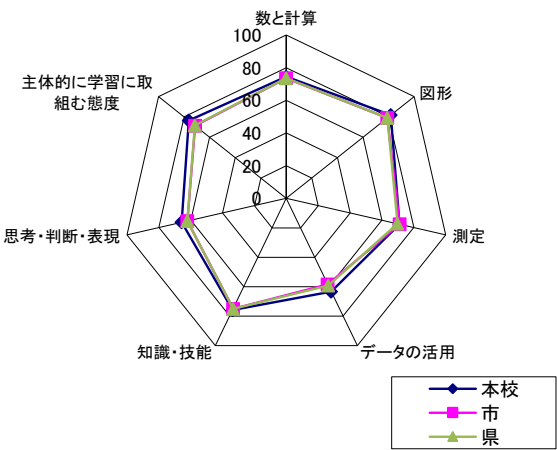
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読み書きについては、90～100%の正答率のものが多い。 ●漢字の熟語の読み書きについては、本校の平均正答率が60～65%であり、市の平均より低い。	・漢字ドリルやデジタル教材を活用しながら、繰り返し読み・書きの練習に取り組み、定期的にミニテスト等を実施して定着を図っていく。 ・他の教科の学習や日記等、既習漢字を使って、文章を書くよう意識させる。
情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均より高い。 ○説明文で情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問、メモと文章を読み、考えを支える理由を書く設問では、本校の平均正答率は市の平均より高いが、半数以上の児童が正答していない。 ●国語辞典の使い方に関する設問では、本校の平均正答率は、市の平均よりやや低い。	・国語辞典や漢字辞典のひき方を再確認し、普通の授業や家庭での学習の中で、辞典を使う習慣を身に付けさせる。 ・説明文においては、段落の相互関係をとらえられるように、各段落の見出しを考えたり、関係性を図式したりしながら、文章の構成をとらえられるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均より高い。 ○正しい部首名をほとんどの児童が選択できていた。漢字のへんやつくりを理解できているといえる。	・漢字ドリルやデジタル教材で読み書きを学習するときに、今後も引き続き漢字の部首や成り立ちなども確認する。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均より低い。 ●全ての設問で、本校の平均正答率は、市の平均よりかなり低く、特に、話合いの内容を聞き取った上で、相手に伝わるように自分の考えとその理由を記述する問題では、特に低い。	・少人数やグループでの話合い活動を多く取り入れたり、テーマを設けたスピーチを継続して実践したりしながら、分かりやすく話すこと、相手の伝えたいことが何かに注意しながら聴くことの両面を意識し、コミュニケーション力を定着させたい。 ・話の聞き方をもう一度確認し、様々な教科の学習や日常生活の中でメモを取りながら話を聞くようにさせる。
書くこと	本校の平均正答率は、市の平均より低い。 ●無回答の児童が30%見られ、市の平均より10ポイント以上低いので、書けなかった児童への手立てが必要である。 ●指定された長さで文章を書くこと、2段落構成で書くこと、自分の考えやその理由を明確にして文章を書くことにおいて課題が見られた。	・文章を書くときの基本的な知識を押さえて指導を行い、文章の間違いを正したり、よりよい表現に直したりして、一人一人の能力に応じた指導をしていく。 ・各行事の振り返りや日記指導を継続して行うことで、書くことに対する抵抗感をなくし、意欲的に取り組めるようにする。
読むこと	本校の平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○説明文で叙述を基に内容を捉え、文章に合うものを選択する設問では、本校の正答率が市の平均より高い。 ●物語文では、登場人物の気持ちや場面の様子について叙述を基に捉えたり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有したりする全ての設問において、本校の正答率が市の平均より低い。	・物語文については、中心人物の心情が分かる言葉に着目させ、そこから心情を読み解き、気持ちの変化をとらえる学習を実践していく。 ・日頃から読書に親しみ、要旨や感想を簡単にまとめる時間を確保するなど、読むことへの抵抗をなくしていく。

宇都宮市立西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.5	73.5	73.6
	図形	81.7	79.0	79.1
	測定	71.0	71.1	69.8
	データの活用	63.3	58.4	59.2
観点	知識・技能	75.8	75.0	75.0
	思考・判断・表現	65.7	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.4	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

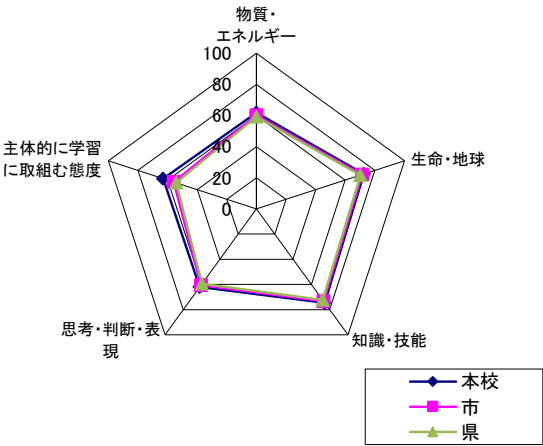
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○□を使った式に合った文章題を選んだり、文章に合った図を選んだりする設問では、本校の正答率が市の平均より高い。 ●3～4桁のたし算、ひき算の計算で、本校の平均正答率が市の平均より低い。	・計算ドリル、タブレット等を活用し、問題を繰り返し解くことで、正確に計算できるよう定着を図っていく。 ・筆算などの計算の途中で、それぞれの数字や計算がどんな意味を表しているかを確認しながら指導していく必要がある。今後も、日々の授業の中で出てくる既習事項を丁寧に確認しながら学習を進めていく。
図形	本校の平均正答率は、市の平均より高い。 ○円の半径が正しいものを選ぶ設問や三角形の作図をする設問では、本校の平均正答率が市の平均より高い。 ●球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める設問では、本校の平均正答率が市の平均より低い。球の直径や半径などの基本的事項の理解に課題が見られる。	・円や球についての基本的な事項の確認や復習を行う。 ・三角定規やコンパスの使い方など技能面を伸ばせるよう、図形の学習のときに基本的な書き方を改めて確認する。
測定	本校の平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○道のりの意味を理解し正しい道のりを選ぶことや、時刻と時間の1分=60秒を理解して正しい時間を選ぶことなどが、よくできている。 ●長さや重さで単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを選ぶ設問は、本校の正答率は、市の正答率の平均より低い。	・目盛りを読むこと、道のりと距離の違いなど、基本的な事項の理解はできている児童が多いため、問題文を繰り返し読んだり、図に表したりしながら理解できるようにしていく。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均より高い。 ○棒グラフの1めもりの大きさに着目して、グラフを読み取り文章で答える設問では、本校の平均正答率は、市の平均よりかなり高い。 ●複数のグラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る問題では、校内の正答率の平均が市の平均より低い。	・問題文を正しく読み取ること、図やグラフから必要な情報を取捨選択することが課題である。授業の中で、答えだけではなくその理由や、補足などについてノートに記入させることを継続して行っていく。 ・文章や図やグラフなどの複合的な問題では、必要な情報に線を引かせたり、しるしをつけたりしながら指導を行っていく。

宇都宮市立西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.8	60.2	59.2
	生命・地球	72.5	71.3	70.3
観点	知識・技能	74.6	73.4	72.3
	思考・判断・表現	62.1	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	63.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	本校の平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○豆電球の明かりのつき方を推測する設問では、正答率が80%で学習内容が定着している様子が伺える。また、実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する設問でも市や県の正答率を上回っている。 ●ソーラークッカーで料理ができる理由を説明する設問では、市や県の正答率を下回っている。また、糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明する設問でも市や県の正答率を下回っている。実験結果や考えたことを整理して伝えようとする力に課題が見られる。	・既習事項等をもとに推測する力は育っている。今後も課題提示や実験の手順・内容・目的などを丁寧に理解できるようにしていくことで伸ばしていく。 ・考えたことや分かったことを自分の言葉で説明することに躊躇してしまうので、自由に話せる授業の雰囲気づくりをするとともに、まとめの時間を利用して、理科の言葉の使い方や説明の仕方などを丁寧に聞き取ったり、プリントに書いたりしてするなどして自信を持てるようにしていく。また、友達同士の情報交換を活発に行う。
生命・地球	本校の正答率は市や県の正答率よりやや高い。 ○虫眼鏡の正しい使い方、モンシロチョウがキャベツの葉に卵を産む理由を説明する設問の正答率は、市や県の正答率を上回っている。 ●記録カードの内容をもとに、共通点や差異点を見出す設問や正午にできる影の方位についての設問は市や県の正答率を下回っている。記録などから規則性を見出す力に課題が見られる。	・生き物や植物の観察などには関心が高いため、環境を整え引き続き、興味・関心をもって接したり観察したりできるようにしていく。 ・1人1台端末や図書室の情報センターとしての機能を活用して、興味のある生き物や植物について自主的に調べていけるようにする。 ・実験・観察の目的をさらに深く理解することで記録の内容や規則性等に着目できるようにし、言葉や文章で表現できるようにしていく。 ・実験・観察の際にタイミングを見ながら、結果や記録からどんなことが言えるかを明確にしていく。

宇都宮市立西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習が好きかどうかの質問では、「国語」「算数」「社会」「理科」において「はい」と回答した児童の割合は、いずれも市町村や県平均を上回っている。また、各教科における数値も宇都宮市の平均を上回っていることから、今後も「朝学」や「パワーアップタイム」、授業における少人数指導などを継続し、児童の学習への意欲付けを図っていく。児童が苦手を克服し達成感を味わえるよう、個に応じた指導を徹底しさらなる学力向上を目指す。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合は8割で、授業者が自分の考えを発表したり友達間で話し合いをする活動を効果的に取り入れた授業をコーディネートしている成果が見られる。

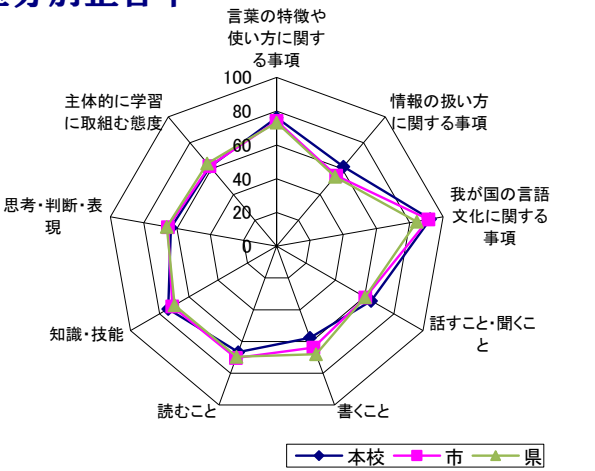
○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」で「はい」「どちらかといえばはい」と回答した児童の割合は、95%で9割を超えており、本校の研究テーマである「主体的・対話的で・深い学び」の取組の成果として表れている。授業では発言がしやすいクラスの雰囲気づくりが進んでいることが読み取れる。

●本校では、宇都宮モデルに従い、授業においてめあての確認、まとめ、振り返りの学習のきまりごにを児童に示し、どの学級においても児童が学習課題をきちんと把握し、目標をもって主体的に取り組めるよう授業実践している。しかし、「めあてが示されているか」「振り返りをしているか」「まとめをしているか」いずれの質問項目の回答も平均を下回っている。そこで、これまで以上に児童に分かりやすくめあてや学習課題を提示し、理解させる導入の工夫を取り入れ学習活動を展開するとともに、改めて学校全体で徹底するよう努める。

宇都宮市立西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.2	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	61.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	92.3	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	64.6	60.6	60.4
	書くこと	57.7	63.8	68.0
	読むこと	66.7	70.4	69.6
観点	知識・技能	74.2	71.3	69.9
	思考・判断・表現	63.6	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	61.5	61.9	64.0



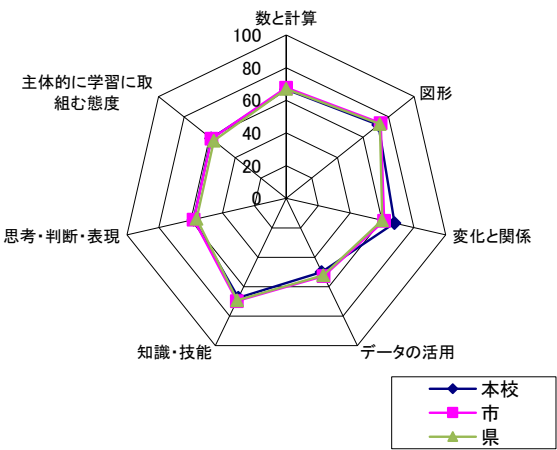
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○漢字については90～95%の正答率が多い。 ●漢字を正しく書く問題の正答率は、読む問題よりも低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・AIDリルや漢字ドリルを活用したり、確認テストを行ったりして、意欲の向上や漢字の定着を図っていく。 ・繰り返し練習し定着を図る授業体制を整えたとともに、日々の学習においても既習の漢字を使い文章を書く指導を継続する。
情報の扱い方に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係をとらえることができる。 ●叙述をもとに文章の内容をとらえたり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有したりする問題の正答率が市の平均より低い。	・説明文を読むときには、「つぎに」や「なぜなら」といった段落の関係を表す言葉に注目させ、段落相互の関係を意識させながら読む指導をすることで、話し手が伝えたいことの内容を捉えられるようにする。 ・アンケートの調査結果から読み取った内容を書く際には、自分の考えを明確にして文章を書くよう手順を示す。
我が国の言語文化に関する事項	本校の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○語彙やことわざを答える問題の正答率が90%を超えている。 ●連体修飾語問題の正答率が低い。	・AIDリルなどを活用し、主語や述語をはじめとした文章の構成についての問題に繰り返し取り組みせ、習熟を図る。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○意見の相違点に着目して、考えをまとめることでできている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題の正答率が低い。	・授業や活動の中で、自分の考えを発表したり友達の考えを聞いたりする際、話の中心を捉えさせるために、話す順序やキーワードに注目するよう意識付けをする。また、聞き方のモデルを具体的に示す。
書くこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○自分の考えを書く問題は、約70%が正答できている。 ●指定された長さで文章を書いたり、2段落構成で文章を書いたりすることが苦手な児童が多く、無回答の児童が多い。	・国語以外の教科でも、自分の考えを文章にして答える場を意図的に設定する。 ・作文や日記を行う際に、添削や作文用紙の基本的な使い方を指導していくとともに、日記や日常的に文章を書く機会を設ける。
読むこと	本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができていない。 ●登場人物の気持ちや情景を、場面と結びつけながら自分で想像する問題の平均正答率が低い。	・学校生活や家庭内で読書をする時間が短くなっている傾向があるので、学校生活の中で読書に親しむ活動を進めていく。 ・授業で登場人物の台詞や行間から気持ちを読む指導を行い、登場人物や場面を意識できるようにする。 ・物語教材で、情景を想像しながら話し合う活動に重点を置く。

宇都宮市立西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.7	67.8	67.0
	図形	72.1	73.9	73.1
	変化と関係	67.9	61.4	60.2
	データの活用	50.0	52.7	52.1
観点	知識・技能	67.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	58.2	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.8	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

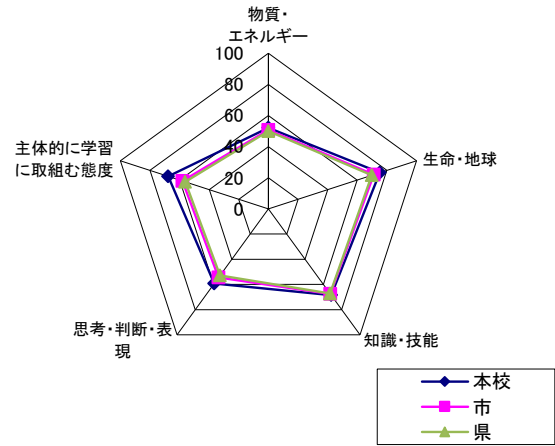
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○小数のかけ算の問題では、約80%が正答できている。 ●数の相対的な大きさを答える問題や、あまりのあ るわり算の正答率が特に低い。	・大きな数を比較するときや、ひっ算をするときには、位を そろえて行うことを指導していく。 ・計算ドリルやAIドリルを活用し、基本的な問題を繰り返し 取り組ませていく。 ・授業の中で、前時の振り返りや、本時のまとめをする活 動を意識して行い、基本的な内容の定着を図る。
図形	本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○長方形の面積を求める問題では、約80%が正答 でき ている。 ●180° よりも大きい角の大きさや、四角形の性質 を答える問題の正答率が特に低い。	・角度の問題を考える際には、直角と180° をもとにして、 既習事項を振り返りながら考えさせる指導を行う。 ・作図の問題では、分度器や三角定規、コンパスを使う問 題に多く取り組ませることによって、正確な作図ができる ように指導していく。
変化と関係	本校の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○数量の関係を割合を使って説明する問題の平均 正答率が市の平均よりも高い。 ●自分の考えを文章で答える問題の正答率が低 い。	・他の教科でも自分の考えを文章にする時間を設ける。ま た、書くことが難しい児童には、言葉にさせる指導をして いく。 ・計算ドリルや自作の教材を通して、様々なパターンの中 に触れる機会を設ける。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○折れ線グラフを正しく読み取る問題の正答率が約 70%である。 ●グラフを根拠に理由を文章で説明する問題の正 答率が低い。	・グラフを正しく読み取ることはできているので、そこから 何が分かるかを表現できるように指導していく。 ・グラフを読む際には、印をつけたり色をつけたりして読 み取れる内容をわかりやすくしながら指導していく。

宇都宮市立西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.1	50.8	50.0
	生命・地球	75.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	68.5	67.6	67.2
	思考・判断・表現	59.2	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	67.7	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	本校の平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○乾電池を直列つなぎと並列つなぎにした時の検流計の針のふれ方を推測する設問や予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する設問では、市や県の正答率を大きく上回っている。 ●押し縮めても水の体積が変わらないことを豆腐の容器に適用する設問や水のすがたについての設問では市や県の正答率を下回っている。	・今後も実験や観察の導入を丁寧に行ったり、結果やその記録をもとに学習のまとめをしたりするなど、分かったことを明確にしていくなど、理解の深化につなげていく。 ・実験・観察の際には、客観的な数値をもとにしてたり体感を大切にしたりして分かったことや結果を明確にしていくようにする。 ・プリント学習や1人1台端末を活用して記録に残し、振り返れるようにするなど、着実に身に付くようにしていく。
生命・地球	本校の平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する設問や方位磁針の正しい使い方に関する設問は市や県の正答率を大きく上回っている。 ●腕を伸ばしているときの筋肉のようすについての設問や満月の方位についての設問では、市や県の正答率を下回っている。	・プリント学習などでグラフや表を活用したり、友達との情報交換をしたりして、数値や変化などからわかる内容を明確にし、学習内容を確実に定着できるようにしていく。 ・実験・観察に必要な器具や道具は実体験として全員が触れたり操作したりできるようにし、技能が定着できるようにする。 ・ヒトの体内や月などの実際に見たり・観察したりすることが難しい場合がある学習内容については、1人1台端末を活用してインターネット上の情報やマルチメディアを活用するなど調べ学習を充実させ、理解の深化を進めていく。

宇都宮市立西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という質問は、「はい」と「どちらかといえばはい」の回答で100%と宇都宮市の平均を上回っている。相手意識が育ち仲間意識が高い傾向にある。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童の割合は8割で、授業者が自分の考えを発表したり友達間で話し合いをする活動を効果的に取り入れた授業をコーディネートしている成果が見られる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問で「はい」「どちらかといえばはい」と回答した児童の割合は、92%で9割を超えている。授業で教師が話し合い活動の場を設定し、対面形式以外での意見交換が可能な形態を工夫している成果が表れている。今後も引き続き、タブレット端末なども用いた多様な形態での話し合い活動を継続していく。

○●「国語の授業の内容はよくわかる」の質問の回答が95%が「はい」「どちらかといえばはい」と答えているのに対し、「国語の問題を解く時間は十分でしたか」の質問に対しては、46パーセントの半数近くが「時間が足りない」「やや足りない」と答えている。出題問題形式に不慣れな傾向が見られた。

●「授業では、クラスの友達との話し合う活動をよく行っている」という質問で肯定的な意見が多かった一方で、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問では、「どちらかといえばいいえ」や「いいえ」が46%と過半数近くの児童が消極的であるという意識をもっている。「友達の意見を最後まで聞くことができる」という回答は、宇都宮市の平均を上回っていることから、グループ内で自分の意見を発表することを重要視している傾向があり、友達の意見から自分自身の意見を深めたり新たな考えを見つけ出したりすることも、グループ学習に自分から進んで参加しているのだからということを見直しに改めて示していく。

●宇都宮モデルに従い、めあての確認、まとめ、振り返りを定着させる取り組みをしている。「めあてが示されているか」「振り返りをしているか」「まとめをしているか」いずれの質問項目も平均を下回っていることから、これまで以上に児童に分かりやすく提示していくとともに、学校全体で授業において徹底するよう再確認していく。

宇都宮市立西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
個に応じた指導	パワーアップタイムとして、朝の学習の時間に児童が特に取り組みたい教科の内容を担当以外の教員が支援することで少人数制での指導を継続していく。	「難しい問題にであうとよりやる気がでる」の質問に対し、本校の回答は宇都宮市の平均を下回っている。一方で「勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある」という児童の回答は85%であり、児童が苦手を克服し達成感を味わえるよう、継続して個に応じた指導体制を整えていく。
話し合い活動の充実	自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを自分と比べながら聴く時間を確保している。従来のペアやグループ学習から、タブレット端末を用いての意見交流や教師が児童同士のコーディネートするなどして、各教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数から全体へと広めていけるようにしている。	「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」の質問では、肯定的に回答している児童が7割であった。今後も、引き続き、他者の意見と比べながらよりよく考える学級活動の力を入れ、そこで学んだことを各教科の話し合い活動に生かすよう継続して指導していく。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業では、めあての確認、終末では学んだことの振り返りを行うことで、分かったことを明確にしている。自分の考えを分かりやすく書いたり、友達の考えから考えを深めたりできるような指導に努めている。	「めあてが示されているか」「振り返りをしているか」「まとめをしているか」いずれの質問項目も平均を下回っていることから、学習課題を明確にし児童に理解させたいと把握させ、授業を展開するよう努める。・授業のまとめについては、自分の言葉でまとめることで、学習の理解が深められるよう工夫するとともに、振り返りでは、個人内評価を取り入れるなど児童の意欲の向上に努める。
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎基本の習得のための学習習慣の確立 ・課題に対し、粘り強く取り組む姿勢の育成	・個に応じた指導 ・宇都宮モデルの活用 ・特別活動における指導	・習熟度別学習や少人数指導、パワーアップ学習等の個に応じた指導の継続。 ・特別活動の話し合い活動に重点を置き、児童の自己肯定感を高めることで、自分の意見に自信をもち苦手や困難な課題に対しても根気強く取り組める児童の育成に努める。